

# With

東北大学病院  
地域医療連携センター通信

第4号  
2007.5

## CONTENTS

- |   |   |
|---|---|
| 1…… 地域医療連携協議会総会を開催                                      | 6…… 睥島移植プロジェクトが本格的に活動を開始  |
| 2…… 看護部長就任にあたって<br>薬剤部の診療施設紹介                           | 7…… 認定看護師紹介<br>セカンドオピニオンの予約受付窓口変更<br>婦人科に新患不妊症外来<br>・新患悪性腫瘍外来を新設<br>総合案内をリニューアル |
| 3…… 生殖医療部の紹介<br>コーヒープレイク                                | 8…… 新患日一覧<br>お問い合わせ先一覧<br>歯学部移転・名称変更<br>編集後記                                    |
| 4…… 睡眠時無呼吸症候群について<br>PET検査のご案内                          |   |
| 5…… 高度救命救急センター主催<br>市民公開講座開催<br>HPリニューアル<br>ラッコハウスがオープン |   |



人にやさしく未来をみつめる

東北大学病院

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号  
TEL 022(717)7000(代)

地域医療連携センター

TEL 022(717)7131(直通)  
FAX 022(717)7132

## EVENT

### ● 東北大学病院地域医療連携協議会総会を開催



病院長挨拶

去る1月31日、「勝山館」に於いて「東北大学病院地域医療連携協議会」を開催しました。この協議会は、「東北大学病院に関連する医療機関との連携を密にすることにより、医療機関との機能分化を促進し、あわせて医療の質の向上に寄与する」ことを目的として、昨年

2月24日に設立したものです。

昨年は主に宮城県内の病院と、民陵協議会の関連病院を対象としていましたが、今回は対象範囲を拡大し、仙台市内の診療所も対象としました。

会の趣旨に賛同し会員になった医療機関の数は、昨年は182件でしたが、今年は582件増えて、全部で764件となりました。(3月20日現在)

今年の総会の出席者は約220名、里見病院長の挨拶で開会し、師宮城県医師会長、山田仙台市医師会長からご挨拶をいただき、次に宮城県病院事業管理者の久道先生から

「第1回地域医療支援中央会議の概要について」という演題で、厚生労働省医政局から内示のあった平成19年度の医師確保対策予算の概要や主要施策、例えば、医療資源の効率的活用による地域医療提供体制の確保、医療分野における情報化の推進等のそれぞれの予算の報告等、大変貴重なご講演を行っていただきました。

その後、当院の特色を他医療機関にPRすることにより、機能分化を促進するというを目的として、当院の荒井副病院長から高度救命救急センターの紹介、がんセンターの概要等の紹介があり、最後に、地域医療連携センター佐々木センター長から、地域医療連携センターの活動内容の報告、診療予約受付、セカンドオピニオン外来の紹介等が行われました。

引き続きフロアを移し懇親会に入りました。懇談会会場では、当院糖尿病代謝科の檜尾先生を中心としたジャズバンドの軽やかな演奏が行われる中、当院の先生方と他医療機関の先生方とで、終始和やかに懇親が行われました。

今後も年1回このような会を開催し、情報の共有や意見交換を行っていく予定です。



## 看護部長就任にあたって

看護部長 星野 悦子

本年4月1日に東北大学病院看護部長に就任しました。よろしくお願いたします。

当看護部は大学病院の基本理念「患者にやさしい医療と先進医療との調和を目指した病院」に基づき、看護部の理念・方針を掲げています。

東北大学病院は特定機能病院として、高度先進医療を提供する病院として、他の医療機関から紹介された患者さんを受け入れることによって、その機能を十分に発揮することが義務づけられています。看護部では特定機能病院に求められている高い社会的使命と、高度先進医療の推進に十分応えられるように、専門看護師・認定看護師の育成に努めています。現在、創傷・オストミー・失禁(WOC)看護2名、不妊看護1名、糖尿病看護1名、救急看護2名、重症集中ケア2名、がん性疼痛看護1名、手術看護1名、感染看護1名、新生児看護1名、ホスピスケア1名、小児救急看護1名、がん化学療法看護1名、透析看護1名の計16名の認定看護師と今年度はがん看護、精神看護の2名の専門看護師の採用で充実を計りました。患者相談・ケア、病棟や外来、化学療法センターで勤務する看護師の支援・指導にあ

たっております。一般病棟入院基本料の看護職員配置基準で、7:1看護を取得したことで、これまでの10対1看護よりも看護師配置数改善と患者ケアの向上で患者さまの入院目標をクリアして、1日でも早く患者さまが地域、家族の元に帰れることを目指しています。

患者さまが特定機能病院で適切な急性期医療を受け、紹介された施設や地域に帰るためには、「医療機関との連携を密にすることにより、医療機関の機能分化を促進し、あわせて医療の質の向上に寄与する」ことを目的として設立された「東北大学病院地域医療連携協議会」や機関紙「With」の発刊等、地域医療連携センターの活動は重要です。

入院期間の短縮は患者さまのQOLという視点から望まれています。高齢者で慢性疾患の急性増悪や脳梗塞、脳出血が原因で入院された患者さま等、退院時に何らかの障害があると予測される場合は、入院時から患者さまとご家族に退院計画を立て、病棟で勤務する看護師は地域医療連携センターに連絡して支援を受けることが大切です。

看護部は患者さんがより良い環境で適切な医療、看護ケアが受けられるよう地域医療に貢献していくことを目指しています。

## ＋SERIES / 診療施設紹介

### 薬剤部のご紹介

薬剤部は、患者さまに適切で安全な薬物療法を受けていただくことを目標に薬物療法を支援しております。薬剤業務は従来の調剤、薬品管理、医薬品情報提供の他、薬剤に関する様々な業務を行っています。現在は入院関連業務の比重が大きくなり、外来調剤を除き、主たる業務機能は昨年度にオープンした新東病棟2階で行っております。

#### 1. 調剤業務

本院の院外処方箋発行率は、現在、約94%に推移している一方で、1日の入院処方箋発行枚数は500枚と入院調剤が大きな割合を占めています。調剤時には新病棟移転を機に全ての患者さま毎に2ヶ月分の薬歴を発行し、重複薬や相互作用等のチェックを強化しました。

#### 2. 薬剤管理指導業務

入院時の持参薬チェックに始まり、入院期間中は薬剤の説明だけでなく退院後の服用方法を考慮した指導を行っており、退院時には転院先や院外薬局への調剤上の注意点等をまとめた指導書を患者さまに交付しています。指導件数は毎月1,900件に上っています。



薬剤管理指導業務

#### 3. 注射薬調剤・ 薬剤管理業務

毎日1,300件分の注射薬を患者さま毎にセットして病棟に払い出しています。その他、毎日の在庫管理業務として、薬剤部内だけでなく手術部、ICU、高度救命救急センターの薬剤及び全病棟の定数薬剤を各部署に出向き、薬剤の在庫管理を行っています。

#### 4. がん化学療法関連業務

外来化学療法センターの使用薬剤の全てを、また、病棟で使用する抗がん剤の約50%を薬剤師が混合調製しています。また、院内には、がん化学療法



外来窓口

#### 副薬剤部長 中村 浩規

ロトコール審査委員会が設置されており、薬剤部が事務局を担当している他、薬剤師が審査員に加わっております。さらに、がん診断で注目を集めているPET検査では診断薬(FDG)の合成・調製、品質管理を薬剤師が担当しています。

本院は都道府県がん診療拠点病院に指定されていますが、がん専門薬剤師養成実習施設にも指定されており、他院薬剤師を実習生として受け入れています。

#### 5. チーム医療への参加

院内感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチームに薬剤師が参加しています。また、医療安全推進室のジェネラルリスクマネージャーにも薬剤師を派遣しています。

#### 6. CRC業務及び治験薬管理業務

本院治験センターにおいて看護師や検査技師とともにCRC業務を行っています。また、治験薬剤の管理やIRB関連の事務局機能を薬剤部が担当しています。

#### 7. 試験研究業務

抗MRSA薬や免疫抑制剤等の薬物血中濃度モニタリングを行っています。また、高度救命救急センター開設に伴い薬物中毒患者が搬入された時には原因薬物の簡易定性試験を行うことになりました。特殊な薬物の体液中濃度測定については最新の質量分析計等を用いて測定し、各診療科の薬物療法を支援しています。

この様に薬剤部の守備範囲は非常に多岐に渡っております。今後も薬に関することに薬剤師が関わることにより患者さまに適切かつ安全な薬物療法を提供するとともに、顔の見える薬剤師をモットーに薬の専門家集団を目指していきたいと考えています。



注射薬調剤



外来化学療法センター調剤室

◆ SERIES / 診療施設紹介

生殖医療部の紹介

産婦人科 周産母子センター准教授 寺田 幸弘

子供をもうけ育てゆきたい気持ちは、人間としてきわめて基本的かつ大切なものであります。しかし、夫婦あるいはパートナーと深く愛し合っているにも子供に恵まれないカップルがいます。東北大学は戦前より日本に先駆けて不妊症の研究に取り組み、昭和58年には日本で初の体外受精、胚移植による妊娠、出産に成功しました。その伝統は連綿と受け継がれ、日本の各所にその地域の生殖医療を担うリーダーを輩出しています。

その後の生殖医療の進歩と普及は皆様周知のごとくまさに爆発的であり、我々も時代の流れに先んじるためには、常にハード、ソフト、人材面の充実を図る必要に迫られています。このたび、新東病棟6階に体外受精、顕微授精(このような技術を生殖補助技術: assisted reproductive technique (ART)と総称します)のシステムを一新した生殖医療部が設置されました。

写真1でご覧いただけるように培養器、顕微授精システム、凍結システムなど先端のARTを行うために必要な機器は全て整備されています。また、病棟内で採卵術が行えるよう機器を取り揃え看護スタッフともども取り組んでいます。本院には宮城県でただ一人の不妊看護認定看護師がいます。不妊看護認定看護師は不妊症で来院する患者さんの心のケアにあたっております。婦人科病棟のスタッフとも、最近の婦人科がん症例の激増で超多忙なおり諸般協力を図りながら業務にあたっております。しかし、女性に対する業務なので看護師の立会いは必須であり、もう少し人的余裕が欲しいと考えております。さらに、17年春より、胚培養士(医師の卵子、精子の取り扱いを補助する生物学系卒業の縁の下の力持ち)を迎え診療の質が向上して参りました。また、泌尿器科の男性不妊症診療チームとも協力を図っております。

周産期医療やがん診療を行う時のような、大きなユニットを必要としない生殖医学の場合は大学、大病院から個人開業医に移りつつあります。その現状を踏まえ大学病院での生殖医療、ARTをどの

ように展開してゆくか、いつも考えています。難治例へのチャレンジ、他分野との融合(たとえば、担がん患者の治療前の性腺の凍結保存と治療後の配偶子回収)など大学病院だから可能であることはたくさんあると思っています。その反面次世代の人類にかかわる生殖医療は、常に科学的な検証のもと慎重に選択、施行されるべきであると考えております。いたずらに社会へのインパクトを求めるのではなく、とかく暴走しがちな最近のARTの流れに、冷静に情報を提供してゆくのも、大学病院の務めかと存じます。

子供を希望するカップルの切実な気持ちの深さと葛藤は、対峙したものでないと理解できません。そのような方々が(授かって、授からなくても)良い結果に導かれるようこれからも我々は日夜努力して参ります。



写真1



不妊看護認定看護師  
高橋 恵美子



胚培養士  
高橋 藍子

～高度救命救急センターのリアルな毎日をお届けします～ \* コーヒーブレイク その3

●「先生は研修医?」

救命センターの当直は17時からの勤務です。日勤をしてそのまま当直業務に突入する病院が多いなかで、恵まれた勤務だと思えます。それでも当直業務も午前3～4時を過ぎると疲労と睡魔が襲ってきます。その日も次々に患者が来て全く休めませんでした。4時頃に、60代の意識障害の男性が救急搬送されてきました。診察の結果、お酒ばかりのんでいて食事をとっておらず、アルコール性ケトアシドーシスと診断しました。奥さん、子供には愛想を尽かされて音信不通になっていたため、突如連絡をとり、朝を待って病院に来ていただきました。「救命センターの当直をしています〇〇です。」と挨拶をするといきなり「先生は研修医?」と質問されました。興気はないと思いますが、疲れた体と心にポティーブローのように効きました。例えば子供の付き添いの女性の年齢が不明な時は、祖母かなと思っても、「お母さんですか?」って聞きますよね。以前、「お母さんですか?」って聞いたら「姉です」ってムッとされた研修医がいましたけど、こちらも人の子ですから少しは気を使って欲しいものです。

●脳低体温療法を施行

1月のある日、61歳の男性が心肺停止から心拍再開し、搬送されてくるとの連絡がありました。夜中に叫び声をあげて意識消失したのを、隣で寝ていた妻が気付いて救急車を要請したそうです。心臓マッサージを開始するまで約10分程度かかっていた。救急隊到着時、心室細動でしたが、除細動は成功しませんでした。ドクターカー到着し、エピネフリンの投与と除細動により心拍再開しましたが、それまでに約50分が経過していました。来院時、意識障害を認めるもののバイタルサインは安定していたため、脳低体温療法を施行しました。復温後、しばしば痙攣を認めるものの、意識は回復し、「好きな食べ物は何?」という質問に「ビール」と答えられるまでになりました。ご家族から見ると、以前とは様子が変わってしまったとのことでしたが、僕たちから見ると、いつもニコニコして人の良いおじさまです。心臓マッサージまで10分、心拍再開まで約50分かかったことを考えると奇跡的だと思います。



## TOPICS

## 睡眠時無呼吸症候群について

感染症・呼吸器内科 准教授 小川 浩正

睡眠時無呼吸症候群は、睡眠中に呼吸が停止することにより、睡眠障害をはじめとして種々の症状を呈する疾患の総称です。代表的な疾患が、閉塞性睡眠時無呼吸症候群です。これは上気道が閉塞するために、呼吸努力をしているにもかかわらず、呼吸ができないもので、先ごろ、停止駅をオーバーランしてしまった新幹線運転士がこの疾患であることが明らかとなり、国内でもこの病気について認知されるようになってきました。人口の2%程度の方がこの疾患に罹患しているものと推測されていますが、現在治療をうけているのは2万人程度にすぎません。県内でも、4～5万人程度の方がいるものと考えられます。症状として、よく知られているものは、眠気です。しかし、眠気がかならず見られるわけではありません。最近よく耳にするようになったメタボリックシンドロームとも密接な関係があり、高血圧、糖尿病などの生活習慣病などや心脳血管疾患のリスクを高めることが知られています。治療抵抗性高血圧の実に8割に、睡眠時無呼吸症候群が合併しているとの報告もあります。この確定診断のためには夜間ポリソムノグラフィ検査が必要となり、その結果により、治療方針が立てられます。この検査は専門性の高い検査ということもあり、どこの医療機関でもおこなえるものではありません。感染症・呼吸器内科では、専門的にこの検査をおこない、診断そして治療を行っております。当科では、患者さまの利便性を図るため、夜19時ごろ入院での1泊入院を行っております。その結果から、治療方針を決定いたしております。夜間ポリソムノグラフィ検査の適応は、睡眠時無呼吸症候群に限らず、肺動脈高血圧症候群、チェーンストークス症候群、ナルコレプシーや特発性過眠症、神経筋疾患など多岐にわたります。そして、その検査結果に応じて、酸素療法導入、非侵襲性人工呼吸器療法導入も行い、そして他の

専門科の判断・治療が必要な場合は、大学病院という利点をいかし、循環器内科、神経内科、精神科、耳鼻科、歯科などとの連携を図っております。合併症につきましても、糖尿病代謝科、腎高血圧内分泌科などへの紹介も行っております。このように睡眠時無呼吸症候群をはじめとしたこれらの疾患は、多くの診療科との協力が必要なものであり、その検査・治療の中心として、東北大学病院が働いていくべきと考えております。そして、感染症・呼吸器内科は、夜間ポリソムノグラフィ検査が必要と皆様が判断されたときの、検査センターとしての役割を果たしていきたいと考えております。検査治療導入は大学病院でおこない、持続陽圧換気療法の月々の管理は、希望がありますなら、皆様のところで、というように、睡眠時無呼吸症候群をはじめとした睡眠呼吸障害などの診断・治療に関しまして、病診連携をはかることで、医療ネットワークを構築していきたいと考えております。お気軽に、地域医療連携センターにご相談ください。一泊検査のみご希望の場合は、患者さまの利便を考慮しまして、検査日当日夜での初診も対応しております。ご相談ください。



PSG検査の様子

## ① 睡眠時無呼吸症候群の検査予約は地域医療連携センターまで。

当院の睡眠時無呼吸症候群の検査入院は、お忙しい方でもお気軽にご来院頂けるよう夜19時頃入院、翌朝6時頃退院の1泊で行っております。入院日が初診となりますので日中に検査予約のためにご来院頂く必要もございません。ご希望の患者さまがいらっしゃいましたら、ご紹介、ご予約ください。

## INFORMATION

## PET検査のご案内

加齢核医学科 教授 福田 寛

当院の加齢核医学科では最新のPET/CT(PETとX線CTが一体になった装置—図1)を用いて主として癌を対象とする画像診断を行っています。用いる薬剤は18F-フルオロデオキシグルコース(FDG)で、癌の糖代謝が亢進していることを利用して画像化するものです。PET/CTではPET画像にCT画像を重ねることにより、代謝活性の画像と精細な解剖学的位置情報が得られます(図2)。これまでPET画像と他の機会に撮像したCT画像を対比して診断していた頃に比べて診断精度が向上しています。

PET/CT検査は、1)全身の癌の検索、2)リンパ節転移など病期診断および、3)癌の再発診断などに有用で、X線CT単独と比べていずれも診断精度が高いと言われております。また、PET/CT全身検索で予期しない病巣が発見されることにより、無駄な手術を回避できたなど患者さんのQOLや利益に貢献する情報もたびたび得られています。

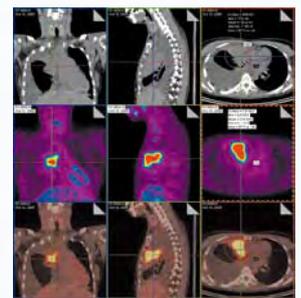


図1 東北大学病院で使用しているPET/CT装置

一方、PETには1cm以下の病巣の検出率が低下すること、悪性でも集積が低いものがあること、活動性炎症や肉芽腫など良性疾患にも集積することなど、限界もあります。

東北大学病院はPETによる癌診断の開発を世界で最も早い時期から行っているパイオニアです。また、医療法で定められたPET研修セミナーの実施やガイドラインの策定など、東北大学病院は現在もこの分野の指導的役割を果たしています。当院ではPETについて専門的知識を有する核医学専門医・認定医7名の医師を擁してPETおよび一般核医学診断を担当しております。

現在、肺癌を始めとして13種類の癌の診断が保険適用となっています。この他にがん焦点の同定、虚血心筋のバイアピリチエの診断も保険適用となっています。院外からのFAXによるPET検査依頼を受け付けておりますのでご利用下さい。

図2 肺癌のPET/CT画像  
上段:CT画像、中段:PET画像、  
下段:CTとPETの重ね合わせ画像

## ●PET検査のお申し込み・お問い合わせは下記まで

東北大学病院 核医学検査受付

電話:022-717-7680 FAX:022-717-7682

EVENT

## 高度救命救急センター主催 市民公開講座開催

平成19年3月9日にアエル6階仙台市情報産業プラザ・セミナーホールにおいて、高度救命救急センター主催の市民公開講座を開催しました。テーマは「知っておきたい救急・災害医療」～地域で子どもの命を守ろう～です。会場には約80名の病院関係者、一般市民の皆さんが集まって下さいました。



まず高度救命救急センター部長の篠澤洋太郎先生から、仙台市の救急体制、東北大学病院高度救命救急センター設立の経緯と役割についての講演があり、その後救命センター医局員から災害医療について、及び学校での救命救急処置(BLS in School)について講演を行いました。いずれの内容も身近な話題であり、聴講者の関心も高いようでした。

最後に仙台市立病院救命救急センター副センター長の村田祐二先生に「子どもを守る救急」という題目で講演していただき

ました。小児救急の臨床経験豊富な村田先生が、日常よく遭遇する小児救急疾患からあまり目にする事のない症例、乳幼児虐待を見逃さないコツ、診療の裏話などを、飽きの来ない話術で興味深く話をして下さいました。

講演修了後には熱心な聴講者が、幼児・学童の心肺蘇生用マネキンを使って簡単な心肺蘇生の練習を行いました。なかなか子どもの蘇生練習など行う機会がないためか、心臓マッサージの深さなど体感できたことが好評だったようです。

終了後に集められたアンケートでも皆さんから、今後も継続して欲しいというありがたいご意見を頂きました。市民の視点に立った身近な救急・災害の話題を引き続き提供し、より多くの市民の方に参加して欲しいと思います。



INFORMATION

## 東北大学病院のHPがリニューアルしました。

4月1日より、当院のHPがリニューアル致しました。より充実し見やすくなったほか、診療予約申込書やセカンドオピニオン関係書類がダウンロードできるなど便利になりましたので、ぜひご覧ください。当院の情報が満載です！

●東北大学病院URL <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/>



INFORMATION

## 病気のお子さんご家族のための滞在施設 ラッコハウスが平成19年5月にオープンしました♪



ラッコハウスはNPO法人ワンダーポケットが提供する、東北大学病院で治療を受けている病児とその家族(定員5名)のための滞在施設です。

入院中のお子さんとそのご家族が、家族水入らずの団らんを過ごす場として、また、付き添われているご家族が休息をとる場としてご利用いただけるよう、仙台市青葉区滝道にあるアパートの一室に、一般的な生活ができる設備や備品をそろえています。最長3日間利用でき、料金は1日あたり1000円(日帰り500円)です。詳しくは直接下記までお問い合わせください。

●お問い合わせ先 特定非営利活動法人ワンダーポケット  
 電話・FAX: 022-277-5702 平日 10:00~18:00  
 ●HP: <http://www.w-p.jp/> ●E-mail: [info@w-p.jp](mailto:info@w-p.jp)



●お部屋



●キッチン



●お風呂

 INFORMATION

## 膵島移植プロジェクトが本格的に活動を開始しました

東北大学先進医工学機構 准教授 後藤 昌史

2000年以降、新しい細胞移植医療の一つとして膵島移植が世界各国で行われるようになりました。現在日本には7つの膵島移植認定施設があり、東北大学病院もその一つです。東北大学病院では世界レベルの膵島移植医療を患者さまに提供できますよう、技術面・設備面・経済面など様々な角度から入念に準備を行って参りました。

### ●膵島移植とは

ご好意で提供して頂いた膵臓から膵島細胞を分離し、分離された膵島を点滴の要領で重症糖尿病患者さまの門脈から肝臓に移植する新しい細胞治療です。

現行のルールでは膵島移植のための臓器は心停止後の患者さまからのみご提供頂くことになっており、ご本人の意思、ご家族の意向を確認した上で組織移植コーディネーターが膵臓提供に関するお話をさせて頂いております。

膵島分離作業は細胞治療に不可欠なcGMP準拠のクリーンな環境を有する、輸血部細胞プロセッシング室で行い、本学と企業で共同開発した膵島専用の培養および移植バッグを使用致します。移植は全身麻酔がいらぬため手術場を必要とせず、レントゲン室で行われます。移植時間は約15～30分で、前後の処置を含めても約1時間で終了致します。

開腹手術を必要とせず、傷跡も残りませんので、膵島移植はまさに“患者さまにやさしい”医療であると言えます。

### ●膵島移植を受ける方の適応

現行のルールではインスリン依存型糖尿病 (IDDM) に限定されており、低血糖発作を繰り返すなど血糖自己管理が非常に困難な方であり、腎移植後の場合は6ヶ月以上経過して腎機能が良好に保たれている方が対象となります。

### ●膵島移植までの流れ

膵島移植を希望される方は、まず膵島移植専門外来 (下記) を予約・受診して頂き、その上で状況に応じて移植適応を判別するために必要な検査を受けて頂く事になります。外来受診時は、保険証、印鑑、SMBGノート、可能であればかかりつけ主治医の紹介状と最近の検査結果をお持ち頂ければ助かります。検査の結果を踏まえて登録申請の手続きをとり、膵・膵島移植研究会の膵島移植適応検討委員会による審査が行われ、適応と判定された場合、最終的に移植の意志を確認した上で登録を行う手筈になります。膵臓の提供があった場合、登録順にご連絡を差し上げております。

### ●本学の膵島移植への取り組み

心停止後の膵臓から膵島を分離する際には高い技術が必要とされます。本学では東北大学先進医工学研究機構の支援のもと、学内に膵島分離の専任チームを発足致しました。動物モデルで日夜修練を重ね、本学独自の膵島分離法を考案し移植に備えております。

また、移植後の膵島生着を促進できるよう、様々な工夫を加え、世界に先駆けた独創的な研究活動も継続的に行っており、本邦膵島移植のリーディングチームとして積極的に学会等に報告致しております。

### ●費用

現在のところ、まだ膵島移植は保険適応になっておりませんが、本学におきましては保険適応が認められるまでの当座の間、患者さまの経済的負担を減らすよう努めて参ります。費用に関しましては、下記外来まで気軽にお尋ね下さい。

### ●膵島移植専門外来 (予約制)

膵島移植専門外来：022-717-7742 (第2・第4火曜日の午後)

膵島移植専門外来担当医 (後藤昌史)：022-717-8489/7895

gotokichi@aol.com

膵島移植プロジェクトのホームページ [www.tohoku-islets.com](http://www.tohoku-islets.com)

現在A型2名、B型1名、O型1名、AB型0名の登録済み患者さまがおられますが、本学は後発であるため他施設に比べてまだまだ登録患者さまが少なく、患者さまにとりましては移植のチャンスが十分に伺える状況であります。

本学では昨年12月に東北大学第1例目の膵島移植を行い、今年1月に2例目を行っております。1例目の移植におきましては、心停止下での移植であるにもかかわらず、1度の移植で海外における脳死ドナーの移植効果を上回る結果を得る事が出来ております。

今後も精力的に取り組んでまいりたいと思っておりますので、血糖コントロールに難渋される症例があるようでしたら、どうぞご紹介下さいますようお願い申し上げます。



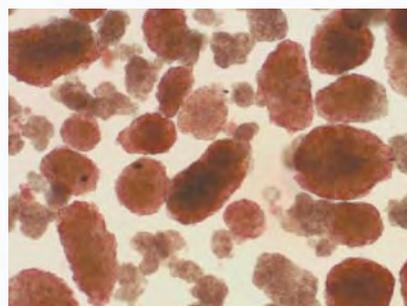
膵島分離

膵島の分離状況を確認している。



膵島移植

レントゲン室で移植を行っている。



膵島

分離後採取した膵島



輸血部細胞プロセッシング室

膵島の品質を保つために必要な知識の習得のためのトレーニングを行う

＋ SERIES / 認定看護師紹介

認定看護師とは、「看護ケアの広がりや質の向上を図るために、日本看護協会が認めた特定の分野における熟練した看護技術と知識を有する看護師」をいいます。現在は17の認定分野があり、当院では、13分野16名の認定看護師が「実践」「指導」「相談」の役割を果たすべく活動を行っています。今回は、がん性疼痛看護認定看護師の活動を紹介します。

第2回：がん性疼痛看護認定看護師

緩和ケアチームの一員として

がん性疼痛看護認定看護師 **武田 真恵**

昨年8月東北大学病院が宮城県がん診療連携拠点病院に指定されたことを受けて、院内に緩和ケアチームが結成されました。準備期間を経て、今年の1月からは本格的運用を開始しています。私はその緩和ケアチームの専従看護師として活動をはじめました。

まだ結成間もないため依頼ケースは少ないのですが、いろいろな病棟を横断的に回ってみて、チームで関わることの重要性を日々感じております。がんの患者さまは「治療をして治りたい」という気持ちを持って入院生活を送られています。その中で疼痛や呼吸苦などの苦痛を経験し、揺れる気持ちを体験しています。またその患者さまと身近に接している看護師や医療スタッフも苦悩しています。個々の診療科のスタッフだけでなく、より質の高い緩和ケアを多くの患者さま・家族に提供できるように緩和ケアチームを活用していただきたい

と思います。私たち緩和ケアチームは患者さまの疼痛などの身体的苦痛症状の緩和と、不安や不眠、せん妄などの精神的苦痛症状の緩和、療養先の相談、医療スタッフの相談・指導などを行ないます。

認定看護師の役割には『実践』『相談』『指導』があります。緩和ケアチームの一員としてがん性疼痛看護の『実践』『相談』は行なえるようになってきたと思います。そして『指導』については昨年度から、共にごん診療拠点病院になった宮城県がんセンターの認定看護師の方たちと専門分野(がん)における質の高い看護育成研修に取り組みようになり、宮城県内の様々な病院に勤めている看護師の皆様に『指導』する機会に恵まれました。そこで自分の至らなさも痛感できましたし、大学病院としてのがん看護ということを考えなければならぬと実感しました。大学病院の卒後研修として系統的にがん看護を学んでいけるようなプログラムを今年から実施していく予定です。また宮城県の上記研修を今年度も継続していく予定ですので皆様とともに質の高いがん看護を目指していきたいと考えています。



緩和ケアチームのカンファレンス風景

FROM OFFICE / 地域医療連携センターからのおたより

セカンドオピニオンの予約受付窓口が変わりました

これまで医事課で行っていたセカンドオピニオンの予約受付窓口がH19年2月から地域医療連携センターへ変更となりました。診療予約のお申し込みは医療機関からのご紹介でのみ受け付けておりますが、セカンドオピニオンのお申し込みは患者さまご本人からも受け付けております。

- 相談時間：一人につき1時間(相談45分、主治医への報告書作成15分)
- 費用：31,500円(税込み)
- 担当医師：専門性を考慮して当方で決定致します
- 申込方法：完全予約制となっております。地域医療連携センターまで「セカンドオピニオン申込書」をお送りください。担当医と予約日時を調整しご連絡致します。  
\*「セカンドオピニオン申込書」はHPからダウンロードできます。「診療予約申込書」とは別紙になっておりますのでご注意ください。
- 受付時間：月曜～金曜の8時30分～17時15分まで(土・日・祝日・年末年始除く)
- ご本人の受診が原則ですが、同意書をお持ち頂ければご家族でも可能です。



● 詳細につきましては下記までお問い合わせください

地域医療連携センター

TEL 022-717-7131(直通)  
FAX 022-717-7132

INFORMATION

婦人科新患日に「新患不妊症外来」と「新患悪性腫瘍外来」を新設しました。

これまで、婦人科の新患日は疾患に関わらず、月曜～金曜まで毎日新患の患者さまを受け付けておりましたが、今後は以下のように疾患により振り分けをすることとなりました。それにより、患者さまが初診時から専門の医師による診察を受けることができ、よりスムーズに受診して頂けますので、ご紹介頂く医療機関におかれましてはご理解とご協力をお願い致します。

変更前

婦人科  
新患日：月曜～金曜

変更後

婦人科  
新患不妊症外来：月・水・金  
新患悪性腫瘍外来：火・木

● その他の疾患につきましてはこれまでどおり、月曜～金曜(祝祭日・年末年始除く)の新患日となります。

総合案内がリニューアルしました!!

4月から東北大学病院外来棟1階のホールに新しい顔が登場しました。これまで医事課の職員が交代で午前中のみ対応していましたが、患者さまへのサービス向上を目的として、専任の担当者が朝8:00～夕方まで対応することになりました。総合案内の対応のほか、外来ホールにある「けんこう情報館」の利用案内、自動会計精算機の取り扱い補助、駐車場の使用や精算等にかかる対応等も担当しており、患者さま、お見舞いの方々から大変好評です。



New Face ♪

にこやかに応対する吉田さん(左)と原田さん(右)(財団法人「辛酉会」の職員です)

**\*新患日一覧\***

※受付時間は8:30~10:30までとなっております。(眼科・皮膚科は10時までとなっておりますのでご注意ください)  
 ※( )内の電話番号は各診療科外来です。

(H19.4現在)

循環器内科 (022-717-7728)	月~金	移植・再建・内視鏡外科 (022-717-7742)	食道外科:水・木	小児科 (022-717-7744) 小児腫瘍科 (022-717-7878)	月~金
感染症・呼吸器内科 (022-717-7766)	月~水		血管外科:月・火	遺伝科 (022-717-7744)	月~金 ※予約制
腎・高血圧・内分泌科 (022-717-7778)	水・金	乳腺・内分泌外科 (022-717-7742)	移植・肝臓外科:火・金	小児外科 (022-717-7758)	月~金
血液・免疫科 (022-717-7730)	水・金		乳腺外科:月・水・木	皮膚科 (022-717-7759)	月~金 (8:30~10:00)
糖尿病代謝科 (022-717-7779)	火・金	心臓血管外科 (022-717-7743)	甲状腺外科:火・金	眼科 (022-717-7757)	月~金 (8:30~10:00)
消化器内科 (022-717-7731)	火・金		木・金	耳鼻咽喉・頭頸部外科 (022-717-7755)	月・水・金
老年科/漢方内科 (022-717-7736)	老年科:水	整形外科 (022-717-7747)	月~金	肢体リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
	漢方内科:火・水 ※予約制	形成外科 (022-717-7748)	月・水・金	運動リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
心療内科 (022-717-7734)	月・水・金	麻酔科 (022-717-7760)	水・金	内部リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
遺伝子・呼吸器内科 (022-717-7875)	月・水・木・金	緩和医療科 (022-717-7768)	月・火・木 ※予約制	高次リハ (022-717-7751)	月・水・木・金
腫瘍内科 (022-717-7879)	月・火・木・金	呼吸器外科 (022-717-7877)	月・水・金	放射線治療科 (022-717-7732)	月~金
肝・胆・膵外科 (022-717-7740)	一般新患:月・水・金	婦人科 (022-717-7745) 産科 (022-717-7745)	月~金	放射線診断科 (022-717-7732)	月~金
	膵臓疾患:月	泌尿器科 (022-717-7756)	月・火・水・金	加齢核医学科 (022-717-7880)	月~金 ※出来れば火・水・木
	肝胆道疾患:金	神経内科 (022-717-7735)	火・金	総合診療部 (022-717-7509)	月~金
胃腸外科 (022-717-7740)	一般新患:月・水・金	脳神経外科 (022-717-7752)	月・木・金		
	胃腸悪性疾患:水	脳血管内治療科 (022-717-7752)	火・金		
	炎症性腸疾患:木	精神科 (022-717-7737)	月・水・金		

**\*お問い合わせ先一覧\***

代表 022-717-7000 (8:30~17:15) ※受付時間は8時30分から  
 事務当直 022-717-7024 (上記時間帯以外) 17時15分までとなっております。

お問い合わせ先	番号	備考
地域医療連携センター	診療案内等 TEL022-717-7618 予約等 TEL022-717-7131	診療日・受付時間等の確認、紹介患者さまのご予約等につきましては、お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせください。
セカンドオピニオン外来	地域医療連携センター TEL022-717-7131 FAX022-717-7132	予約制となっております。事前にお電話にてご連絡をお願い致します。
遺伝カウンセリング	小児科外来 TEL022-717-7744	
緩和ケアセンター入棟相談	緩和医療科外来 TEL022-717-7768	予約制となっております。受診日につきましては事前にお電話にてご確認くださいようお願い致します。
W O Cセンター	TEL022-717-7652	
高度救命救急センター	TEL022-717-7499	
治験センター	TEL022-717-7772	
臓器移植医療部	TEL022-717-7702	移植外科の新患日は火・金となっております。(火・金以外でも対応可能な場合がございますので、別の曜日で受診ご希望の場合には、臓器移植医療部までご連絡をお願い致します。)
核医学・PET検査受付	TEL022-717-7680	

**INFORMATION**

**東北大学歯学部附属病院の名称が変更となりました。**

東北大学病院では、医学部附属病院と歯学部附属病院が統合した後、それぞれの場所・建物において診療を続けておりましたが、H18年10月に新東病棟が稼働を開始しH19年2月中旬に歯科部門の病棟が新東病棟内に移転致しました。それに伴い旧歯学部附属病院の建物内では外来診療のみを行うこととしましたので、名称は歯科医療センターへと変更致しました。

旧 **東北大学  
歯学部附属病院**

**東北大学病院附属  
歯科医療センター**

**編集後記**

「With第4号」はいかがだったでしょうか。

紙面でも紹介しましたが、今年の春のヒットは「総合案内」リニューアルです。すてきな二人が春風のごとく、外来患者さまにさわやかな癒しを与えてくれています。

少し薄暗い低めの天井の外来ホールが、ぱっと明るくなりました。2007年度も、東北大学病院の情報をどんどんお届けしますので、今後ともよろしくお祈りします。



● 編集・発行 東北大学病院地域医療連携センター TEL: 022-717-7131 FAX: 022-717-7132  
 E-mail: ijik002-thk@umin.ac.jp

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携センターまでお願いいたします。